

4

2019

三重病院

ニュースレター

news letter vol.236

01 肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻の話

02 異動のごあいさつ/再任のごあいさつ

5病棟の生活のひとコマ④

03 「やまぼとギャラリー」情報コーナー
通所支援事業04 Medical Safety Letter 安全便り(4月)
外来からのお知らせ/外来診察のご案内

肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻の話

小児外科が扱う疾患にはいろいろなものがありますが、今回はその一つ、肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻についてお話ししましょう。

赤ちゃんが下痢をしたり、おむつかぶれができたりした後に多いのですが、肛門のまわりが赤く腫れて痛がるようになり、膿がたまっていくことがあります。

これを肛門周囲膿瘍と言います。直腸と肛門との境目には凹みがあり、この凹みからそこにある肛門腺にばい菌が入って感染をおこし、肛門の周囲の皮下に膿のたまり(膿瘍)ができた状態です。この膿瘍は自然につぶれて膿が出たり、膿

瘍を切開して膿を出してしまうといったん症状は落ち着きますが、腫れたり膿が出たりを繰り返したりすることも多いです。再発を繰り返したりして皮膚との間にトンネル状の管ができ、皮膚に小さな穴(瘻孔)が開いてしまうことがあります。

これが痔瘻です。乳児にできるので乳児痔瘻です。もちろん新生児(0か月児)にもできることがあります。病気の原因についてはよくわかっていません。わざわざ乳児痔瘻というぐらいですから大人の痔瘻とは違う点があります。比較

的良くみられる病気で決して珍しいものではありませんが、そのほとんどが男児です。女兒にはほとんどみられません。多くの場合は肛門の側方に生じます。そして、ここが最も異なるのですが、大人の痔瘻は最終的には手術をしないと治らないことが多いのですが、乳児痔瘻は1~2歳までにほとんど治ってしまい、再発しなくなってしまうます。赤ちゃんの肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻に対しては、膿瘍が大きい場合には前述したように切開して膿を出し、抗生剤の内服・静脈注射を行ったりすることもあります。腫れてしこりができている部分を圧迫して膿を出してあげたり、排便後におしりを洗浄したり、抗生物質入りの軟膏を塗布したりして対処することがほとんどです。

最近では治療に漢方薬を使用することが多くなってきました。肛門周囲が赤くなって化膿し、痛みがある急性期には排膿散及湯、再発を繰り返したりしてなかなか治らないときや、再発予防のためには十全大補湯という漢方薬を使用することが多いです。両方の薬を併用することもあります。味やにおいの点で、やや飲みにくいのが難点です。1~2歳まで待っても再発を繰り返す、痔瘻が残った場合等には手術が必要になります。

治るまでに時間がかかる病気ですが、あせらずに気長につきあっていきましょう。ねばってればほとんど治っていく病気です。

(小児外科 中澤 誠)

